

第 277 回(3 月)

これからの製品安全ーキャノンの実質安全戦略

キャノン株式会社 品質本部製品安全部長 秋山光男氏

安全に対する基本は、これで大丈夫と思っても、もし少しでも疑問が残るのであれば、コストを無視してでも安全側に寄ることである。

広く PL と言っても、対策内容は 2 つに別れる。

①PS（製品安全）：危険を未然に防止するための実質安全運動－製品の安全性を高めることと取り扱い説明書、警告ラベルによる対応など。

②PLD（PL 防御）：事故発生後のための対策－ISO9000 による文書管理、PL 保険、PL 訴訟時の手続きの習得など。

充分なフェール・セーフをしても、何層もの安全機構が同時に故障する確率はどうしても残るのである。従来、世界各国のすべての安全基準を達成していれば、それでよしとする風潮があったが、安全基準自体が、企業の技術進歩に追いつけなくなった今、実質的な安全基準を企業自体が作らなければならない時代に入った。

そういう認識に基づいて、キャノンでは、品質保証体系を変え、これまで事業部の中にあった安全部門を事業部と同格に格上した。その中に世界の安全規格を検討する部門、安全規格に基づく技術評価・試験をする部門、発生したものに対応する部門をつくった。

厳しい破壊試験、工程審査、認定試験、ロット保証試験、取り扱い説明書の表示ガイドラインの設定…。さらに年間 2 回の集合教育によってそれを徹底させ、PS と PLD の水準を大幅に向上させることができた。